



海の情報

<https://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss>

# 水試だより

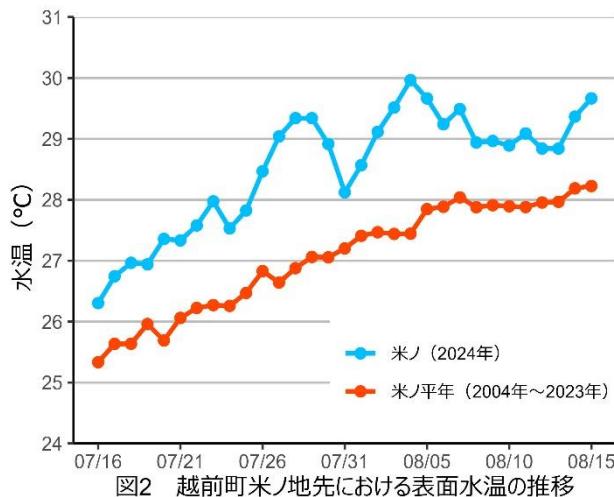
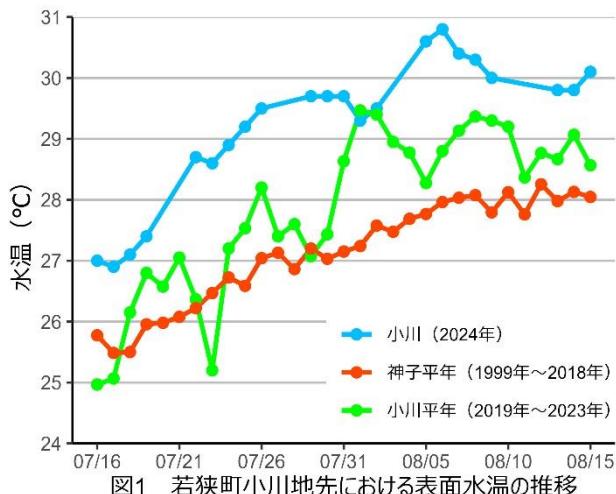
令和6年9月3日発刊(21710)

福井県水産試験場  
海洋資源研究センター  
TEL:0770(26)1331  
FAX:0770(26)1379  
suisi@pref.fukui.lg.jp

第109号

## [海の状況 (7/16 ~ 8/15)]

- ・小川地先の表面水温… 7月中旬から8月中旬にかけてかなり高め (平年差1.0°C~1.5°C) からはなはだ高め (平年差1.5°C~) で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 7月中旬から8月中旬にかけてかなり高め (平年差1.0°C~1.5°C) からはなはだ高め (平年差1.5°C~) で推移した。



## [若狭湾および周辺海域の海況: 7月]

7月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、今年の水深50mの22°C~26°Cの範囲は昨年同時期と比較して沖合に広がっていた。水深100mの8°C~12°Cの沖合の冷水域は昨年同時期には確認できなかつたが、今年は確認できた。水深200mの0°C~4°Cの範囲は昨年同時期と比較して沿岸に広がっていた(図3)。

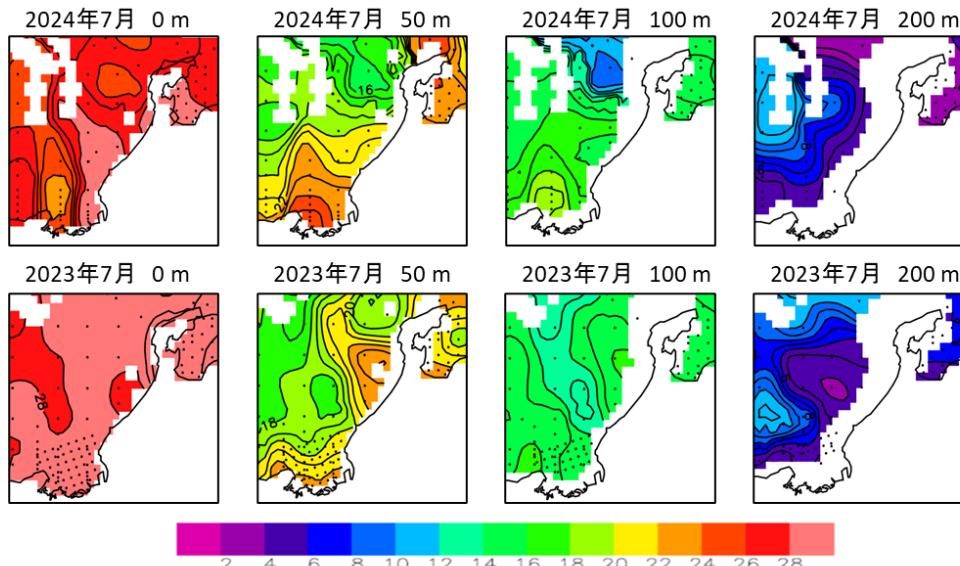


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

## 大型クラゲ情報

本年度は、日本海沿岸各地で大型クラゲの出現が確認されており、福井県でも7月21日以降、定置網での入網が報告されています。水産試験場では、8月19~20日に福井丸による大型クラゲのネット採集調査および目視調査を実施しました。ネット採集調査（中層トロール）ではクラゲは確認されず、航行中の目視調査では3個体が確認されました。

現在、大量漂着は発生していませんが、今後の状況によっては漂着数が増加する可能性があります。水産試験場では今後も、大型クラゲの動向を注視するとともに情報発信に努めてまいります。

(漁場環境グループ 児玉 敦也)

### 〔県内の漁模様：7月〕

2024年7月の県内の総漁獲量は531tで、前年同月を15t上回り、平年を431t下回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は392tで、前年同月を39t上回った。カツオ類、ブリ類等が上回り、サバ類等が下回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は8tで、前年同月を4t上回った。アカエビが上回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は131tで、前年同月を28t下回った。タイ類、アマダイ等が上回り、スルメイカ等が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網						底びき網					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
イワシ類	23,434	5,960	19,023	17,474	4,412	アカエビ	7,693	3,627	18,303	4,066	-10,610
(マイワシ)	5,059	255	1,607	4,804	3,452	その他	186	64	1,584	122	-1,398
(ウルメイワシ)	14,175	0	213	14,175	13,962	合計	7,879	3,691	19,886	4,188	-12,008
(カタクチイワシ)	4,200	5,705	17,203	-1,505	-13,003	釣り、延縄、さし網、その他の漁法					
アジ類	31,609	33,945	59,870	-2,336	-28,261	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(アジ)	16,453	18,091	31,386	-1,638	-14,932	タイ類	9,371	7,597	7,669	1,774	1,702
(小アジ)	12,182	9,256	25,093	2,925	-12,912	アマダイ	2,670	1,374	3,179	1,296	-509
(アオアジ)	2,974	6,597	3,391	-3,623	-417	スルメイカ	13,130	20,399	63,504	-7,269	-50,374
サバ類	122,769	141,854	57,384	-19,085	65,385	タコ類	29,317	29,262	33,145	55	-3,828
(サバ)	95,126	123,499	41,968	-28,373	53,157	藻類	663	2,907	2,718	-2,244	-2,055
(ビンサバ)	27,643	18,355	15,416	9,288	12,228	サザエ	14,150	19,004	23,089	-4,854	-8,939
マグロ類	2,811	2,199	3,068	612	-256	バイ貝	44,055	50,359	53,776	-6,303	-9,721
カジキ類	1,980	1,166	1,931	813	49	イワガキ	7,561	12,575	19,380	-5,015	-11,819
カツオ類	26,260	4,157	4,598	22,103	21,662	その他	10,070	15,208	28,236	-5,138	-18,165
ブリ類	52,781	25,197	217,767	27,584	-164,986	合計	130,988	158,686	234,696	-27,698	-103,708
(ブリ)	18,037	15,596	8,171	2,441	9,866	全漁法					
(ハマチ)	17,233	5,083	99,899	12,150	-82,666	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(ツバス)	17,166	3,489	95,503	13,677	-78,337	合計	531,136	516,015	962,177	15,121	-431,040
ヒラマサ	16,833	1,802	4,500	15,031	12,333						
サワラ	74,567	57,128	209,064	17,439	-134,497						
トビウオ	16,919	26,548	40,873	-9,629	-23,953						
タイ類	4,987	8,361	10,438	-3,374	-5,451						
(マダイ)	2,294	6,180	7,921	-3,886	-5,627						
(その他タイ)	2,674	2,174	2,468	500	206						
スズキ	1,843	9,676	8,464	-7,832	-6,621						
カマス	2,032	3,205	4,384	-1,173	-2,352						
ケンサキイカ	2,499	11,145	18,945	-8,646	-16,447						
その他	10,944	21,296	47,286	-10,352	-36,342						
合計	392,269	353,638	707,595	38,631	-315,325						

※1 平年の値は2014-2023年の10年平均です。※2 ( )は銘柄、その他タイはマダイ、チダイ、キダイ以外のタイ類です。

※3 バイ貝の平年値は2015-2023年の9年平均です。※4 イワガキの平年値は2015年-2023年の9年平均です。

※5 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬～8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

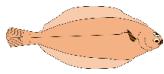
石川県…定置網…マサバ226t、フクラギ37t、マアジ22t、ソウダガツオ22t、サワラ・サゴシ14t

京都府…定置網…混じり353t、サバ類178t、サワラ111t、ブリ14t、ヒラマサ10t

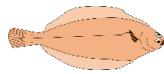
兵庫県…定置網…マサバ2,787kg、ケンサキイカ747kg、トビウオ699kg、マアジ627kg、スズキ458kg

鳥取県…まき網…マサバ1,592t、マアジ493t、ブリ類367t、ウルメ327t、マイワシ64t

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)



## ヤナギムシガレイの加入量調査について—②



### ～若狭湾にいるヤナギムシガレイは何歳？資源回復のためには？～

#### はじめに

ヤナギムシガレイは本県ではササガレイ、アマガレイあるいは若狭かれいの名前で親しまれており、毎年皇室への献上が行われている重要魚種です。昨年度の水試だより（96号）において、本種を対象とした桁網調査の開始を報告しました。そこで本稿では、その後に行った解析とその結果を報告します。

#### 調査方法

桁網調査で採集したヤナギムシガレイの体長や体重を測定するとともに、頭部から耳石を摘出して年齢査定（何歳か調べる）を実施しました。

耳石を用いた魚類の年齢査定方法はいくつかの方法がありますが、ヤナギムシガレイの場合は無眼側の耳石を用いた表面観察法による年齢査定が他府県で行われています。そこで今回はこの先行事例に倣って採集したヤナギムシガレイの雌雄別体長別の年齢査定を行いました。

#### 調査結果

調査で採集したヤナギムシガレイの耳石の一例を図1に示します。耳石には透明帯と不透明帯と呼ばれるシマ模様（輪紋）が形成され、木の年輪と同様にこの輪紋を数えることで年齢を確認することができます。

実際に調査で採集されたヤナギムシガレイの雌雄別体長別の年齢査定結果を表1に示します。雄では1歳～8歳魚、雌では1歳魚から11歳魚までが確認されました。また、雄では2歳魚（約12cm）が主体であり、雌では2歳および3歳魚（約13cm～15cm）が主体となっていました。

#### 調査結果から見えること

ヤナギムシガレイの産卵期は1月～2月頃です。雄は2歳、雌は3歳から再生産に関与することが分かっています。そのため、今回の調査で主体となったこれらの個体群は昨冬に初めて産卵に参加したものと推察されます。それと同

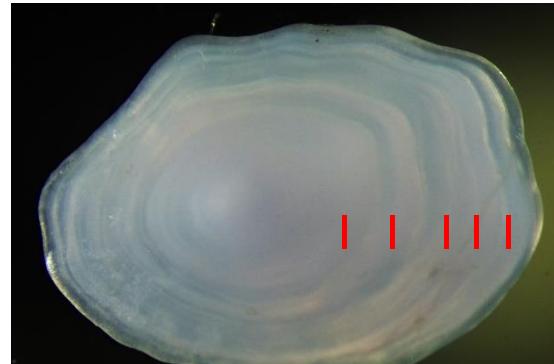


図1 ヤナギムシガレイの耳石の一例

赤線は輪紋（シマ模様）の読み取り位置を表しています。輪紋を数えると、この個体は5歳であることが分かります。

表1 桁網調査で採集されたヤナギムシガレイの雌雄別体長別年齢査定結果

年齢	オス		メス	
	個体数	平均体長 (mm)	個体数	平均体長 (mm)
1歳	4	114.4 ± 14.2	1	108.3
2歳	35	123.2 ± 10.2	19	129.9 ± 13.6
3歳	22	143.1 ± 11.4	21	148.5 ± 14.1
4歳	8	150.3 ± 16.5	10	164.1 ± 13.2
5歳	2	168.6 ± 3.3	9	161.1 ± 12.9
6歳	0	—	11	172.2 ± 7.1
7歳	0	—	4	189.9 ± 10.7
8歳	1	155	1	174.5
9歳	0	—	1	190.8
10歳	0	—	0	—
11歳	0	—	2	227.2 ± 12.0

時に、これらの個体が確認されたことは、資源管理の取り組み方次第では、ヤナギムシガレイの資源を回復できる可能性が残されていることを示しています。今後、資源を回復させていくためには、2～3歳魚の小型個体を保護することにより、再生産に関与する個体数を増やす取り組みが重要となります。引き続き本種の資源回復に向けた適切な提案ができるよう、調査を継続していきます。

（海洋資源研究センター漁業管理グループ 元林裕仁）